

四半期報告書

(第50期第1四半期)

自 平成25年1月1日

至 平成25年3月31日

共同ピーアール株式会社

東京都中央区銀座七丁目2番22号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 3

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 4
- (4) ライツプランの内容 4
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 4
- (6) 大株主の状況 4
- (7) 議決権の状況 5

2 役員の状況 5

第4 経理の状況 6

1 四半期連結財務諸表

- (1) 四半期連結貸借対照表 7
- (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 9
 - 四半期連結損益計算書 9
 - 四半期連結包括利益計算書 10

2 その他 13

第二部 提出会社の保証会社等の情報 14

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年5月15日
【四半期会計期間】	第50期第1四半期（自平成25年1月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	共同ピーアール株式会社
【英訳名】	KYODO PUBLIC RELATIONS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 上村 巍
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座七丁目2番22号
【電話番号】	03-3571-5171
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室長 信澤 勝之
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区銀座七丁目2番22号
【電話番号】	03-3571-5172
【事務連絡者氏名】	取締役経営企画室長 信澤 勝之
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第1四半期連結 累計期間	第50期 第1四半期連結 累計期間	第49期
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 3月31日	自平成25年 1月1日 至平成25年 3月31日	自平成24年 1月1日 至平成24年 12月31日
売上高（百万円）	1,122	1,002	4,256
経常利益又は経常損失（△）（百万円）	78	△10	114
四半期（当期）純利益又は四半期純損失（△）（百万円）	8	△11	18
四半期包括利益又は包括利益（百万円）	11	5	27
純資産額（百万円）	1,068	1,052	1,065
総資産額（百万円）	1,769	1,969	1,884
1株当たり四半期（当期）純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額（△）（円）	6.60	△9.40	15.27
潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	60.4	53.4	56.5

- （注） 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成25年1月1日～平成25年3月31日）におけるわが国経済は、新政権による経済対策、金融政策への期待感から円安・株高が進行し、景気回復の兆しが見られたものの、欧州債務問題やアメリカの財政問題等によって世界経済の不確実性は続いており、先行不透明な状況で推移いたしました。

PR業界につきましても、企業の事業縮小や見直しによって、広報やマーケティングに対する予算は引き続き抑制傾向にあり、依然厳しい状況での事業展開となりました。

このような環境の中、当社グループは、新規リテイナー契約の獲得に向けて積極的な営業活動を行っています。新規に契約した顧客については、リテイナー契約のみならず、イベントや記者会見等のスポット&オプション案件を付帯した提案を行い受注に結び付ける等着実に伸張し、特に、IT、医療、教育分野の企業における案件数は増加傾向にあります。一方で、既存のリテイナー顧客については、契約更新に伴う契約内容の見直しや受注単価の下落、また、スポット&オプション案件の受注額の減少が続きました。この結果、共同ピーアール株式会社のペイドパブリシティの売上は、前年同期比で大幅に上回った一方、主力であるリテイナー売上については、新規顧客の獲得が進んでいるものの、既存顧客との契約の見直しや受注額の減少に伴い、前年同期を下回りました。また、スポット&オプションについては、大型プロジェクト案件の受注がなく、前年同期を下回る結果となりました。

国内連結子会社の共和ピー・アール株式会社及び株式会社マンハッタンピープルは、順調に受注数を伸ばし、前年同期比で売上高は大幅に上回る結果となりました。一方、海外子会社の共同拓信公関顧問（上海）有限公司については、スポット&オプション取引の一部案件が延期となっているものの、為替の影響もあり、売上は前年を若干上回る結果となりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、1,002百万円（前年同期比10.7%減）、営業損失100百万円（前年同期は75百万円の営業利益）、経常損失100百万円（前年同期は78百万円の経常利益）、四半期純損失110百万円（前年同期は8百万円の四半期純利益）となりました。

(2) 財政状態の分析

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は1,456百万円となり、前連結会計年度末に比べ68百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金の減少29百万円があったものの、現金及び預金の増加82百万円等によるものであります。固定資産は512百万円となり、前連結会計年度末に比べ16百万円増加いたしました。これは主に、繰延税金資産の減少9百万円があったものの、投資有価証券の増加26百万円等によるものであります。

この結果、総資産は、1,969百万円となり、前連結会計年度末に比べ85百万円増加いたしました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は713百万円となり、前連結会計年度末に比べ98百万円増加いたしました。これは主に、前受金の減少19百万円があったものの、支払手形及び買掛金増加44百万円、短期借入金の増加55百万円等によるものであります。

この結果、負債合計は917百万円となり、前連結会計年度末に比べ97百万円増加いたしました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産は1,052百万円となり、前連結会計年度末に比べ12百万円減少いたしました。これは主に、その他有価証券評価差額金が16百万円増加したものの、利益剰余金の減少30百万円等によるものであります。

この結果、自己資本比率は53.4%（前連結会計年度末は56.5%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しておりませんので、記載を省略しております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,040,000
計	5,040,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年5月15日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,260,000	1,260,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	1,260,000	1,260,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年1月1日～ 平成25年3月31日	—	1,260,000	—	419	—	360

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年12月31日）に基づく株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 30,200	—	単元株式数 100株
完全議決権株式（その他）	普通株式 1,229,300	12,293	同上
単元未満株式	普通株式 500	—	—
発行済株式総数	1,260,000	—	—
総株主の議決権	—	12,293	—

② 【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式 数（株）	他人名義 所有株式 数（株）	所有株式 数の合計 （株）	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合（％）
共同ピーアール株式会社	東京都中央区銀座七丁目2番22号	30,200	—	30,200	2.40
計	—	30,200	—	30,200	2.40

（注）当第1四半期会計期間末日現在の自己名義所有の自己株式は30,317株であります。

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	538,617	621,479
受取手形及び売掛金	759,262	729,684
未成業務支出金	31,989	47,206
その他	61,851	63,002
貸倒引当金	△3,543	△4,711
流動資産合計	1,388,176	1,456,662
固定資産		
有形固定資産	143,381	141,131
無形固定資産	3,018	2,939
投資その他の資産		
破産更生債権等	181,452	180,906
その他	349,738	368,791
貸倒引当金	△181,452	△180,906
投資その他の資産合計	349,738	368,791
固定資産合計	496,138	512,863
資産合計	1,884,315	1,969,525
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	184,296	228,814
短期借入金	206,400	261,600
未払法人税等	6,416	3,546
その他	218,271	219,675
流動負債合計	615,384	713,636
固定負債		
退職給付引当金	150,941	151,339
役員退職慰労引当金	52,958	52,158
固定負債合計	203,900	203,497
負債合計	819,284	917,134

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	419,900	419,900
資本剰余金	360,655	360,655
利益剰余金	289,426	259,421
自己株式	△16,042	△16,058
株主資本合計	1,053,939	1,023,918
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,350	24,617
為替換算調整勘定	2,740	3,854
その他の包括利益累計額合計	11,091	28,472
純資産合計	1,065,030	1,052,391
負債純資産合計	1,884,315	1,969,525

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	1,122,419	1,002,225
売上原価	439,317	412,903
売上総利益	683,101	589,322
販売費及び一般管理費	607,468	599,835
営業利益又は営業損失(△)	75,632	△10,512
営業外収益		
受取利息	42	37
受取賃貸料	860	795
為替差益	298	284
保険解約返戻金	2,368	—
その他	228	89
営業外収益合計	3,797	1,205
営業外費用		
支払利息	430	895
売上割引	9	163
営業外費用合計	439	1,059
経常利益又は経常損失(△)	78,990	△10,366
特別損失		
固定資産売却損	10,529	—
固定資産除却損	36	—
過年度決算訂正関連費用	41,580	—
特別損失合計	52,145	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	26,844	△10,366
法人税、住民税及び事業税	2,197	795
法人税等調整額	16,487	397
法人税等合計	18,685	1,193
四半期純利益又は四半期純損失(△)	8,159	△11,559

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	8,159	△11,559
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,782	16,267
為替換算調整勘定	866	1,114
その他の包括利益合計	3,648	17,381
四半期包括利益	11,808	5,822
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	11,808	5,822

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)
該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)
該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)
減価償却費	5,507千円	2,717千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間（自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日）

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月29日 定時株主総会	普通株式	18,596	15.00	平成23年12月31日	平成24年3月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始日から当第1四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日）

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月28日 定時株主総会	普通株式	18,445	15.00	平成24年12月31日	平成25年3月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当連結会計年度の開始日から当第1四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

2. 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第1四半期連結累計期間（自平成24年1月1日 至平成24年3月31日）
当社グループは、PR事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。
- II 当第1四半期連結累計期間（自平成25年1月1日 至平成25年3月31日）
当社グループは、PR事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	6円60銭	△9円40銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△) (千円)	8,159	△11,559
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	8,159	△11,559
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,236	1,229

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年5月15日

共同ピーアール株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 向出 勇治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 林 達郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている共同ピーアール株式会社の平成25年1月1日から平成25年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、共同ピーアール株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。